

# 2019年1月期 第2四半期 決算説明会

---

株式会社 シーイーシー

2018年9月20日



Shape your future

**CEC**  
Computer Engineering & Consulting

**2019年1月期  
第2四半期の経営成績**

# 第2四半期実績 前年比較

(単位：百万円)

	2018年1月期 上期実績	2019年1月期 上期実績		
			増減額	増減率
売上高	22,594	<b>25,308</b>	+2,713	+12.0%
営業利益	1,642	<b>2,537</b>	+894	+54.5%
営業利益率	7.3%	<b>10.0%</b>	(+2.7%)	—
経常利益	1,670	<b>2,558</b>	+887	+53.1%
経常利益率	7.4%	<b>10.1%</b>	(+2.7%)	—
当期純利益*	1,134	<b>1,725</b>	+590	+52.0%
当期純利益率	5.0%	<b>6.8%</b>	(+1.8%)	—

\* 「当期純利益」は「親会社株主に帰属する当期純利益」を示す。以降同じ。

# 第2四半期実績 業績予想比較

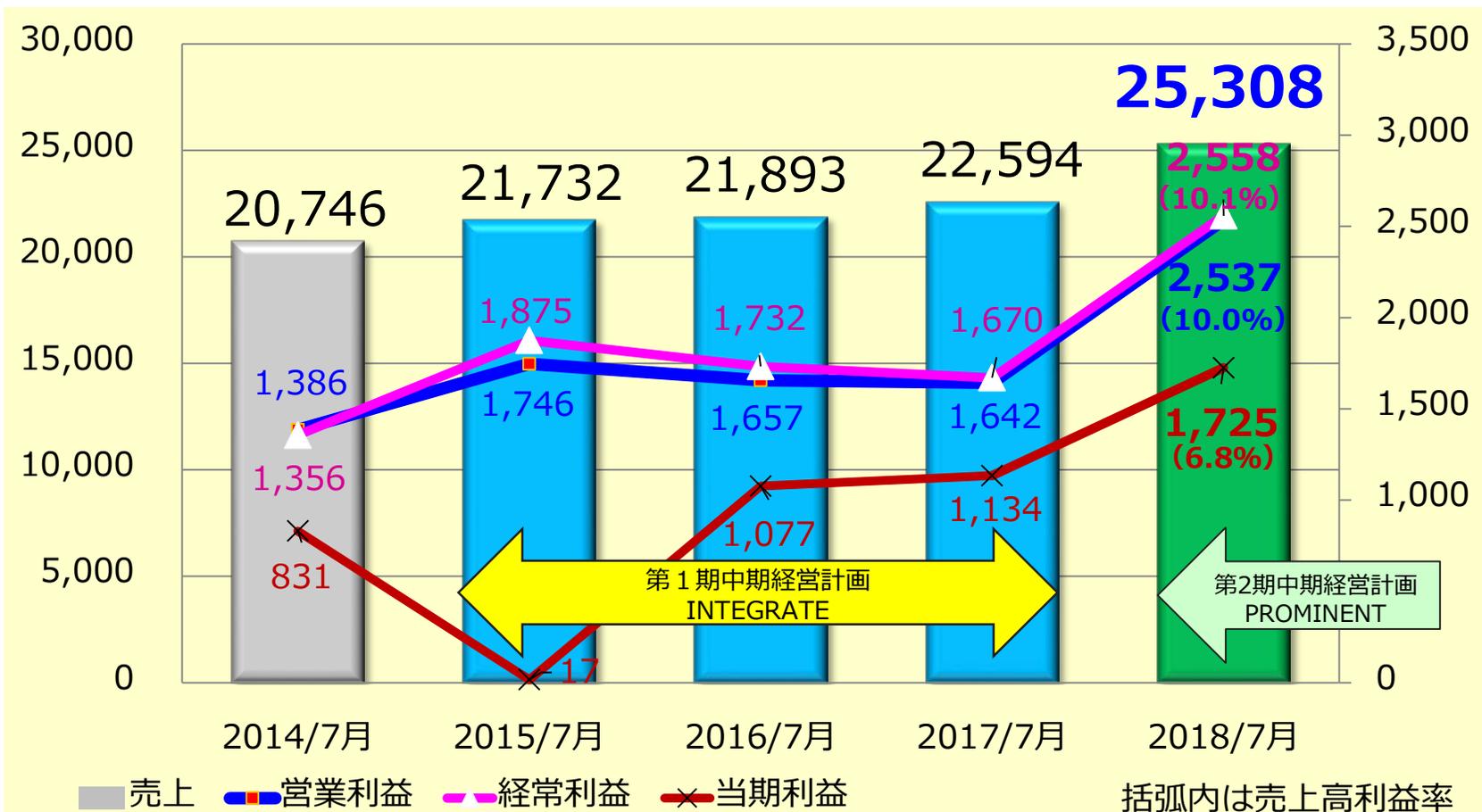
(単位：百万円)

	2019年1月期 上期実績	2018年3月 期首予想	2018年3月 期首予想に 対する達成率	2018年6月 修正予想	2018年6月 修正予想に 対する達成率
売上高	<b>25,308</b>	23,730	106.6%	24,800	102.0%
営業利益	<b>2,537</b>	1,940	130.8%	2,350	108.0%
営業利益率	<b>10.0%</b>	8.2%	—	9.5%	—
経常利益	<b>2,558</b>	1,960	130.5%	2,350	108.9%
経常利益率	<b>10.1%</b>	8.3%	—	9.5%	—
当期純利益	<b>1,725</b>	1,240	139.2%	1,550	111.3%
当期純利益率	<b>6.8%</b>	5.2%	—	6.3%	—

# 第2四半期実績と過去5年の推移

- 売上/利益ともに堅調に推移し、各利益はいずれも第2四半期累計で過去最高

売上高 (百万円) 利益 (百万円)



# 事業セグメント別 第2四半期 前年比較

(単位：百万円)

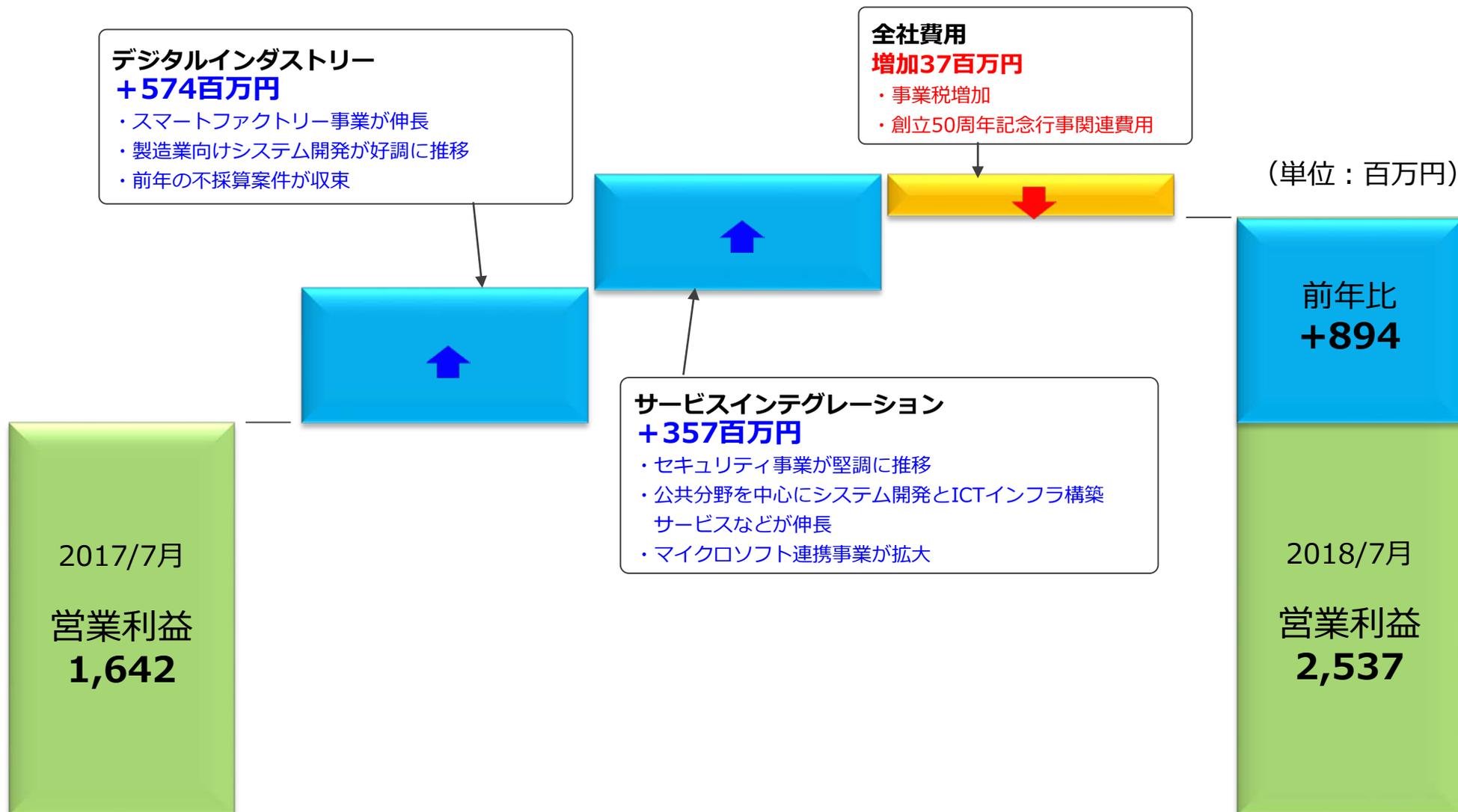
	2018年1月期 上期実績		2019年1月期 上期実績		増減額	
	売上高	営業利益 利益率	売上高	営業利益 利益率	売上高 (増減率)	営業利益 (増減率)
デジタル インダストリー	6,977	1,055 15.1%	<b>8,386</b>	<b>1,629</b> <b>19.4%</b>	<b>+1,409</b> <b>(+20.2%)</b>	<b>+574</b> <b>(+54.5%)</b>
サービス インテグレーション	15,617	2,243 14.4%	<b>16,921</b>	<b>2,600</b> <b>15.4%</b>	<b>+1,304</b> <b>(+8.4%)</b>	<b>+357</b> <b>(+15.9%)</b>
全社費用	—	<b>▲1,656</b>	—	<b>▲1,693</b>	—	<b>▲37</b>
全事業	22,594	1,642 7.3%	<b>25,308</b>	<b>2,537</b> <b>10.0%</b>	<b>+2,713</b> <b>(+12.0%)</b>	<b>+894</b> <b>(+54.5%)</b>

# 業種別売上 第2四半期 前年比較

(単位：百万円)

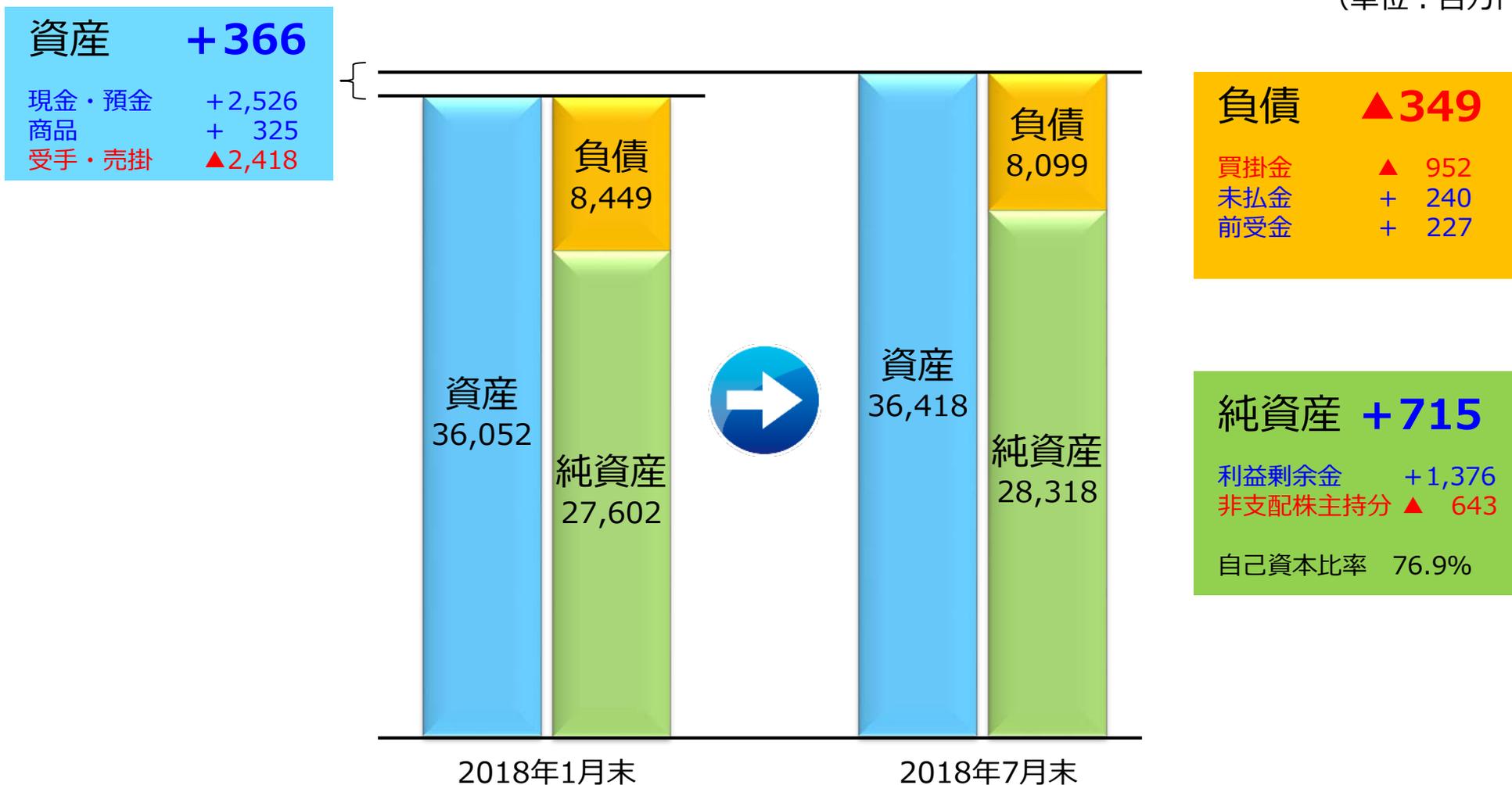
	2018年1月期 上期実績		2019年1月期 上期実績		前年比	
					増減額	増減率
製造業	9,540	42.2%	<b>11,150</b>	<b>44.1%</b>	1,609	16.9%
通信・情報業	5,733	25.4%	<b>6,328</b>	<b>25.0%</b>	595	10.4%
金融業	2,977	13.2%	<b>2,875</b>	<b>11.4%</b>	▲102	▲3.4%
流通業	1,333	5.9%	<b>1,411</b>	<b>5.6%</b>	78	5.9%
官公庁	829	3.7%	<b>1,123</b>	<b>4.4%</b>	293	35.4%
その他	2,179	9.6%	<b>2,418</b>	<b>9.6%</b>	239	11.0%
合計	22,594	100.0%	<b>25,308</b>	<b>100.0%</b>	2,713	12.0%

# 連結営業利益の主な増減要因



# 連結貸借対照表 期首との比較

(単位：百万円)



# 業績ハイライト（全体概要）

## 売上高 25,308 百万円（前年比+2,713百万円）

### ◆ デジタルインダストリー事業 (+1,409百万円)

- ・スマートファクトリー事業は主力製品の販売を中心に好調に推移
- ・組立製造業向けシステム開発や製品内の組込みソフト開発などの受託開発分野が活況
- ・検証サービス中心から、製品開発プロセス全般を支援するサービス事業へ転換が進み需要増

### ◆ サービスインテグレーション事業 (+1,304百万円)

- ・セキュリティサービス事業は堅調に拡大
- ・公共分野を中心にデータセンターサービス事業やインフラ構築サービス事業などICTサービス全般が伸長
- ・マイクロソフト連携事業は新規顧客開拓により順調に拡大

## 営業利益 2,537百万円（前年比+894百万円）

- ・売上拡大に伴う利益増
- ・品質/生産性向上による利益増
- ・前年の不採算案件が収束した反動による利益増

## 経常利益 2,558百万円（前年比+887百万円）

- ・営業利益の増加に伴う利益増

## 当期純利益 1,725百万円（前年比+590百万円）

- ・経常利益増加に伴う利益増

# 2つの注力事業の事業概況

## スマートファクトリー 事業

製造業のIT投資拡大を背景に、自社オリジナルのスマートファクトリー関連製品やサービスの需要が拡大。旺盛な需要に応え、新たに工場の可視化を実現するVisual Factoryや工場セキュリティのSecureCross Factoryを市場に投入

## セキュリティサービス 事業

オフィスセキュリティのSmartSESAMEについては、自治体のセキュリティ強靱化特需が一服、民間企業でのニーズも増えたが上期の断面では前年比マイナス。CEC SOC拡販やトレンドマイクロ社などパートナー連携強化でセキュリティサービス全体では事業拡大

<u>前年との売上比較</u>	2018年1月期 上期実績	2019年1月期 上期実績	増減額
スマートファクトリー事業	9.1億	<b>14.5億</b>	<b>+5.4億</b>
セキュリティサービス事業	13.5億	<b>13.9億</b>	<b>+0.4億</b>
合計	22.6億	<b>28.4億</b>	<b>+5.8億</b>

**前年比  
+59.3%**

## デジタルインダストリー

5/24

### 「Visual Factory」を提供開始

工場のIoTデータを可視化し、生産現場での迅速な意思決定を支援

6/28

### 「SecureCross Factory」を提供開始

工場へのサイバー攻撃を解決するソリューションを提供

7/11

### 「SmartFollow」を提供開始

ウェアラブル型端末を活用した、工場内設備の異常・故障・作業遅れなどの通知システムを提供

## サービスインテグレーション

7/13

### 「情報セキュリティサービス基準適合サービスリスト」に登録

経済産業省策定の「情報セキュリティサービス基準」に適合しているセキュリティサービスとして認定

7/20

### 「Cyber NEXT CloudWAF」を提供開始

クラウド型Webアプリケーションファイアウォールを提供

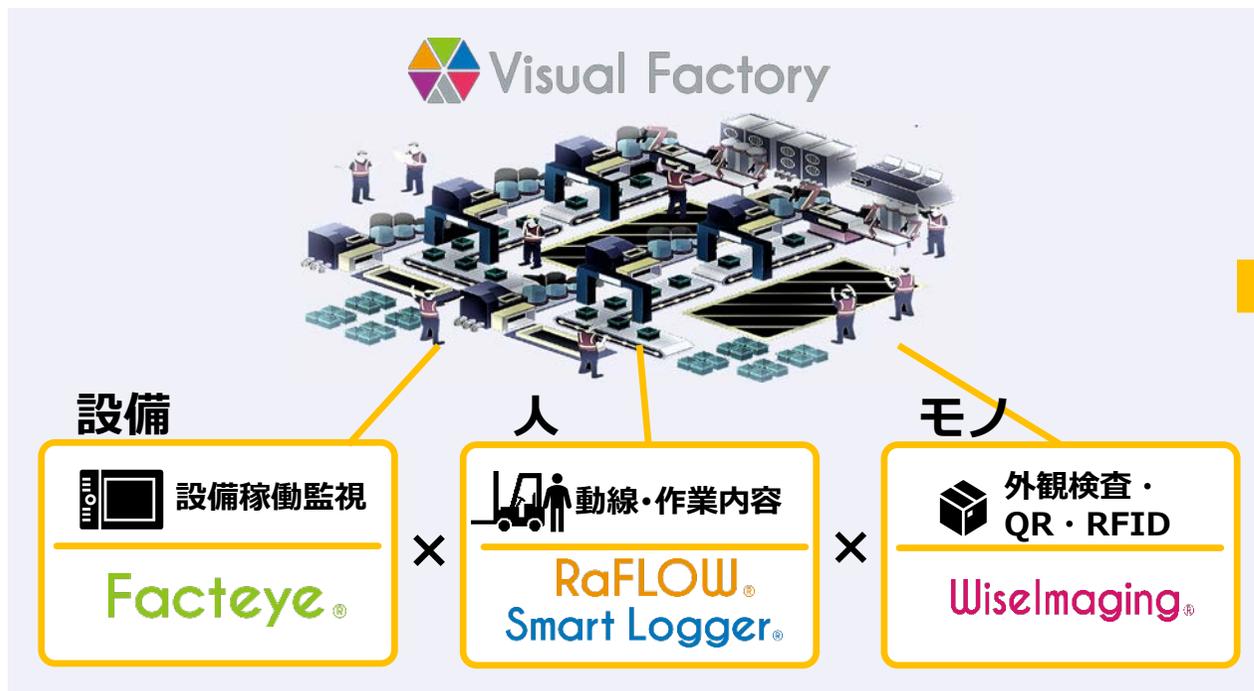
7/25

### 「SmartSESAME MultiScan! 」とクラウドストレージ「Box」が連携

スキャン文書をクラウド上に保存し、社外との情報共有が簡単に

## 工場内の設備・人・モノを可視化する、IoTシステムを提供

工場内の**設備・人**（作業者）・**モノ**（製品）の状態を**可視化**し、生産現場のQCD（品質／コスト／納期）向上と迅速な意思決定を支援する**IoT**（モノのインターネット）システム



## 1. 世界中の工場をモニタリング



## 2. 工場やラインの稼働状況確認



## 3. 生産ラインの評価

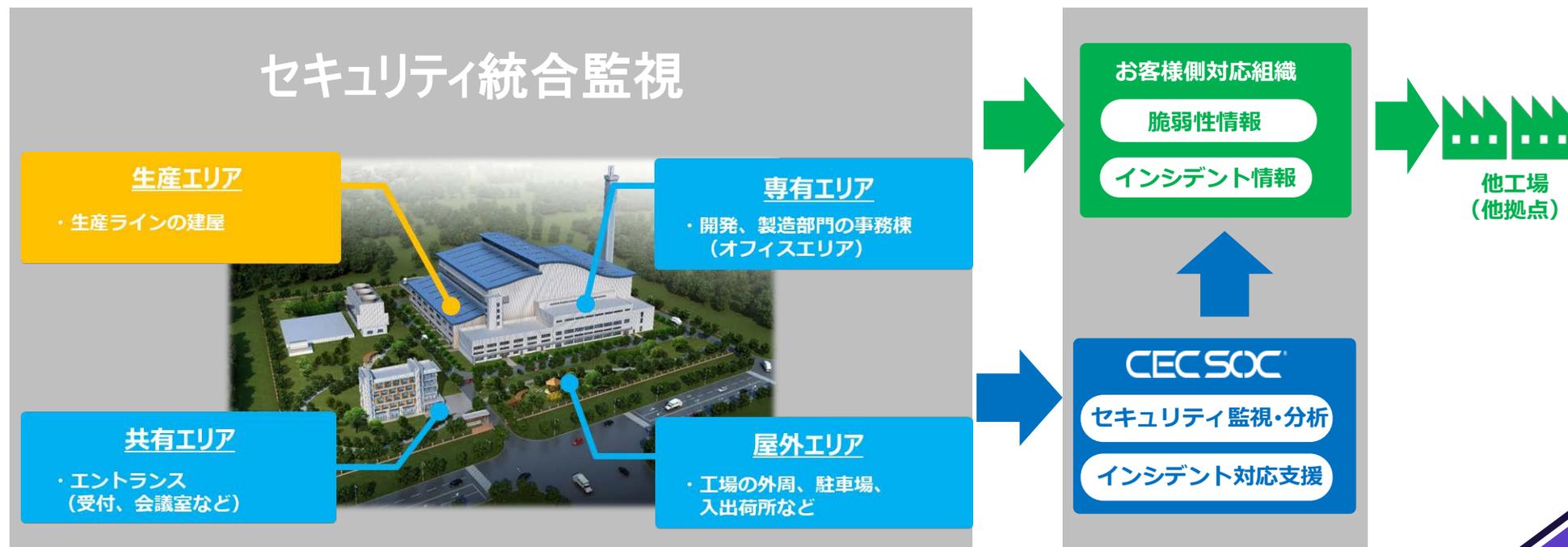


生産現場のQCD向上と  
迅速な意思決定を支援

## 工場の安定稼働とIoT基盤のデータ保護を実現するセキュリティソリューションを提供

工場で守るべき資産（情報、データを含む）やその重要度に着目した「4つのエリア」を定義し、各エリアのシステムログ、アラート情報などを集約する工場全体の「**セキュリティ統合監視**」と「**CEC SOC**」(\*)による対応で、予防保全と被害損失を最小限に抑える仕組みを提供

※「CEC SOC」：専門家による24時間365日のセキュリティ監視・対処支援サービス



紙文書を電子化し、クラウドで安全に活用するデジタルドキュメント管理サービスを提供

MultiScan！で取得したスキャンデータをクラウド型オンラインストレージ「Box」上で管理  
社内はもちろん、外出先や海外拠点、取引先・パートナーとシームレスかつセキュア(\*)な情報共有が可能



※「Box」上でGDPR（EU一般データ保護規制）にも対応したコンテンツ管理が可能です。



*Shape your future*

**CEC**  
Computer Engineering & Consulting

經營環境  
經營環境

- ICT市場は拡大傾向にあるものの、  
経営を取り巻く環境は一段と不透明感を深めている

マクロ環境	日本経済は「緩やかな景気回復」が当面続く見通しだが、災害の多発による影響が懸念される	➡
	先行きの景況感については、業界・資本規模によりばらつきが見られるが、心理的に一服感が見られる	➡
	金融緩和政策変更に対するグローバル市場の評価見極め、消費税増税による景気減速リスク	➡
	貿易摩擦の激化や新興国不安による、日本経済の混乱や日本経済へのインパクトが懸念材料	➡
全産業共通 トレンド	「生産/物流現場」「ホワイトカラー」双方で、生産性向上ニーズが拡大 (収益向上、労働力不足対応、働き方改革)	➡
	IoTや人工知能、ロボットの活用によるビジネス開発の加速	➡
ICT業界 トレンド	自動車産業はじめ製造業のICT投資は増大基調 (自動運転/コネクテッド・インダストリー)	➡
	官民を挙げたセキュリティ対策の普及促進とセキュリティ投資の増加傾向 (コネクテッド・インダストリー税制、中小企業投資促進税制など)	➡
	ICT人材の大幅な不足が続き、人件費も高騰傾向	➡

# 懸念される様々な世界情勢変化

## 《 世界 》

- 米国の保護主義台頭による貿易戦争など諸外国との紛争
- 米国の政治リスクによる米国の経済成長鈍化(11月中間選挙の結果など)
- 中国は米国との貿易摩擦の影響により経済成長鈍化懸念
- 中国の覇権主義による諸外国との紛争の恐れ
- 北朝鮮の核保有問題と朝鮮半島の関係変化によるアジア情勢不透明感の増大
- 解決の糸口が見つからないシリア等中東問題と原油価格上昇

## 《 日本 》

- 日本の9月の自民党総裁選挙の結果でアベノミクス継続不安
- 度重なる自然災害による経済損失の増大と復興遅延による地域経済の低迷
- 大幅な人材不足の継続(IT技術者の不足は特に顕著)

期初方針を継続、企業体質の強化に重点

事業効率の  
さらなる向上

自社製品の機能強化  
新商品の創出

人材育成  
人材増強

新技術・新たな市場など  
の研究活動にも注力



Shape your future

**CEC**  
Computer Engineering & Consulting

# 2019年1月期の見通し

50T222T21日組の首通

# 業績予想の修正（期首通期予想との比較）

	期首予想 (通期)	修正予想 (通期)		
			増減額	増減率
売上高	48,000	<b>49,200</b>	+1,200	+2.5%
営業利益	4,150	<b>4,700</b>	+550	+13.3%
営業利益率	8.6%	<b>9.6%</b>	(+1.0%)	—
経常利益	4,200	<b>4,750</b>	+550	+13.1%
経常利益率	8.8%	<b>9.7%</b>	(+0.9%)	—
当期純利益	2,650	<b>3,200</b>	+550	+20.8%
当期純利益率	5.5%	<b>6.5%</b>	(+1.0%)	—

- 企業のICT投資意欲は大手企業を中心に旺盛、当社が注力している事業領域は需要が拡大傾向にある

## デジタルインダストリー

- ① スマートファクトリー事業は成長軌道を維持、案件数も増加
- ② 大手組立製造業の高いICT投資意欲は継続
- ③ 顧客の製品開発プロセス全般を支援するICTサービスが好調

## サービスインテグレーション

- ① セキュリティサービス事業は堅調に事業拡大
- ② 官公庁・公共分野における各事業は着実に成長を維持
- ③ マイクロソフト連携事業はクラウド市場の拡大により活況

# 新業績予想と前年実績の比較

	2018年1月期 通期実績	2019年1月期 修正予想 (通期)		
			増減額	増減率
売上高	45,994	<b>49,200</b>	+3,205	+7.0%
営業利益	3,748	<b>4,700</b>	+951	+25.4%
営業利益率	8.2%	<b>9.6%</b>	(+1.4%)	—
経常利益	3,819	<b>4,750</b>	+930	+24.4%
経常利益率	8.3%	<b>9.7%</b>	(+1.4%)	—
当期純利益	2,604	<b>3,200</b>	+595	+22.8%
当期純利益率	5.7%	<b>6.5%</b>	(+0.8%)	—

# 事業セグメント別 新業績予想と前年実績の比較

(単位：百万円)

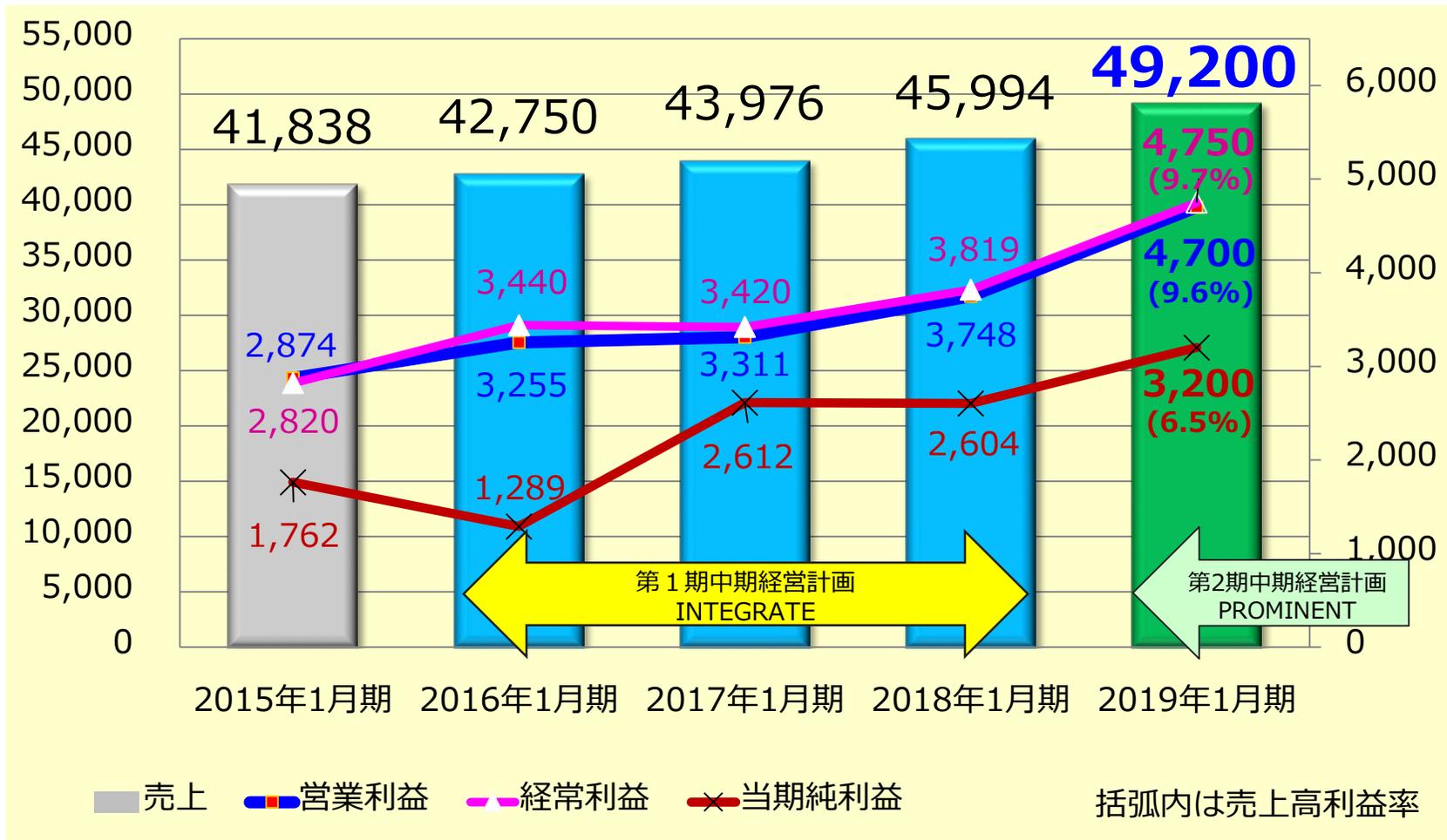
	2018年1月期 通期実績		2019年1月期 修正予想 (通期)		増減額	
	売上高	営業利益 利益率	売上高	営業利益 利益率	売上高 (増減率)	営業利益 (増減率)
デジタル インダストリー	14,667	2,351 16.0%	<b>16,500</b>	<b>3,040</b> 18.4%	+1,832 (+12.5%)	+688 (+29.3%)
サービス インテグレーション	31,327	4,781 15.3%	<b>32,700</b>	<b>5,120</b> 15.7%	+1,372 (+4.4%)	+338 (+7.1%)
全社費用	—	▲3,384	—	▲3,460	—	▲75
全事業	45,994	3,748 8.2%	<b>49,200</b>	<b>4,700</b> 9.6%	+3,205 (+7.0%)	+951 (+25.4%)

# 新業績予想と過去5年の推移

## ■ 連続増収増益を見込む、経常利益率は9.7%を予定

売上高 (百万円)

利益 (百万円)



# 事業セグメント別 通期見通し

## デジタルインダストリー

### ■ 事業方針

- ・ 製造業のデジタル化を支援するICT製品・サービスを提供する
- ・ 組立製造業を中心に、生産性/品質向上を実現するソフトウェア製品を企画・販売するとともに、それら製品を活用したSIサービスを提供する

### ■ 通期見通し

	2018年1月期 売上実績	2019年1月期 売上予想
デジタルインダストリー	146億	165億
内、スマートファクトリー事業	20億	29億

## サービスインテグレーション

### ■ 事業方針

- ・ 特定分野のアプリ開発から、ICTインフラ構築・運用まで、情報システムのライフサイクルのすべてのプロセスに対するICTサービスを提供する
- ・ データセンターも活用し、ICT全体のフルアウトソーシングを推進し、お客様企業のICTパートナーとして、長期的なストックビジネスの事業モデルを拡大する

### ■ 通期見通し

	2018年1月期 売上実績	2019年1月期 売上予想
サービスインテグレーション	313億	327億
内、セキュリティサービス事業	30億	28億

注) 2018年1月期のセキュリティサービス事業の売上には一時的な機器販売による売上を含んでおります

## デジタルインダストリー

- **スマートファクトリー事業の拡大加速**
  - ・工場のIoTプラットフォーム製品「Facteye」など各種製品の拡販
  - ・工場のIoTデータを可視化する「Visual Factory」の市場投入を契機に、生産現場をデジタル化し、収集したIoTデータを活用し、製造現場の改善を検討する顧客を開拓
  - ・工場をセキュリティの脅威から守る「SecureCross Factory」の市場投入を契機に、「つながる工場」の実現とともに増加するセキュリティリスクの対策を検討する顧客を開拓
- **好調な組立製造業向けシステム開発サービスへの対応を継続**
  - ・主要顧客の深耕により、安定したICTパートナーとしての位置づけを確保
- **デジタルエンジニアリング事業は検証サービスから製品開発支援サービスへ事業領域拡大**
  - ・第三者検証サービス、品質マネジメントサービス、組込みソフト開発サービスを三位一体とした製品開発プロセス全般を支援するサービス提供により事業領域を拡大

## サービスインテグレーション

- **トータルセキュリティソリューションCyber NEXTのさらなる拡大**
  - ・ISVパートナーとの連携強化によりセキュリティ商材の拡充と販売力増強に注力
  - ・SmartSESAMEシリーズは官公庁・自治体の開拓を継続しつつ、民間需要を重点的に掘り起こす
- **データセンターサービス事業は新規開拓と既存顧客の深耕に注力**
  - ・活況な商談状況を背景に大型案件の開拓に注力
- **ICTインフラ構築サービス事業の需要は堅調を維持**
  - ・引き合いは順調に推移、新規および既存の深耕に注力
- **マイクロソフト連携事業はConvergentの好調を継続**
  - ・CRMやクラウド(Azure)の旺盛な需要を背景に日本マイクロソフト社と連携し、新規案件開拓を促進
- **社会システム事業は官公庁・公共分野ともに需要が拡大**
  - ・進行中の大型案件の着実な対応および社会インフラ系市場開拓を推進
- **金融システム事業は既存顧客の延伸・縮小を新規商談の開拓で補完**
  - ・マイグレーションサービス「Re@nove」の拡販強化



Shape your future

**CEC**  
Computer Engineering & Consulting

# 第2期中期経営計画 PROMINENT概要

# PROMINENT

特定の事業分野で**際立つ**企業となる

技術が際立つ

人が際立つ

技術

人

商品  
サービス

商品・サービス  
が際立つ

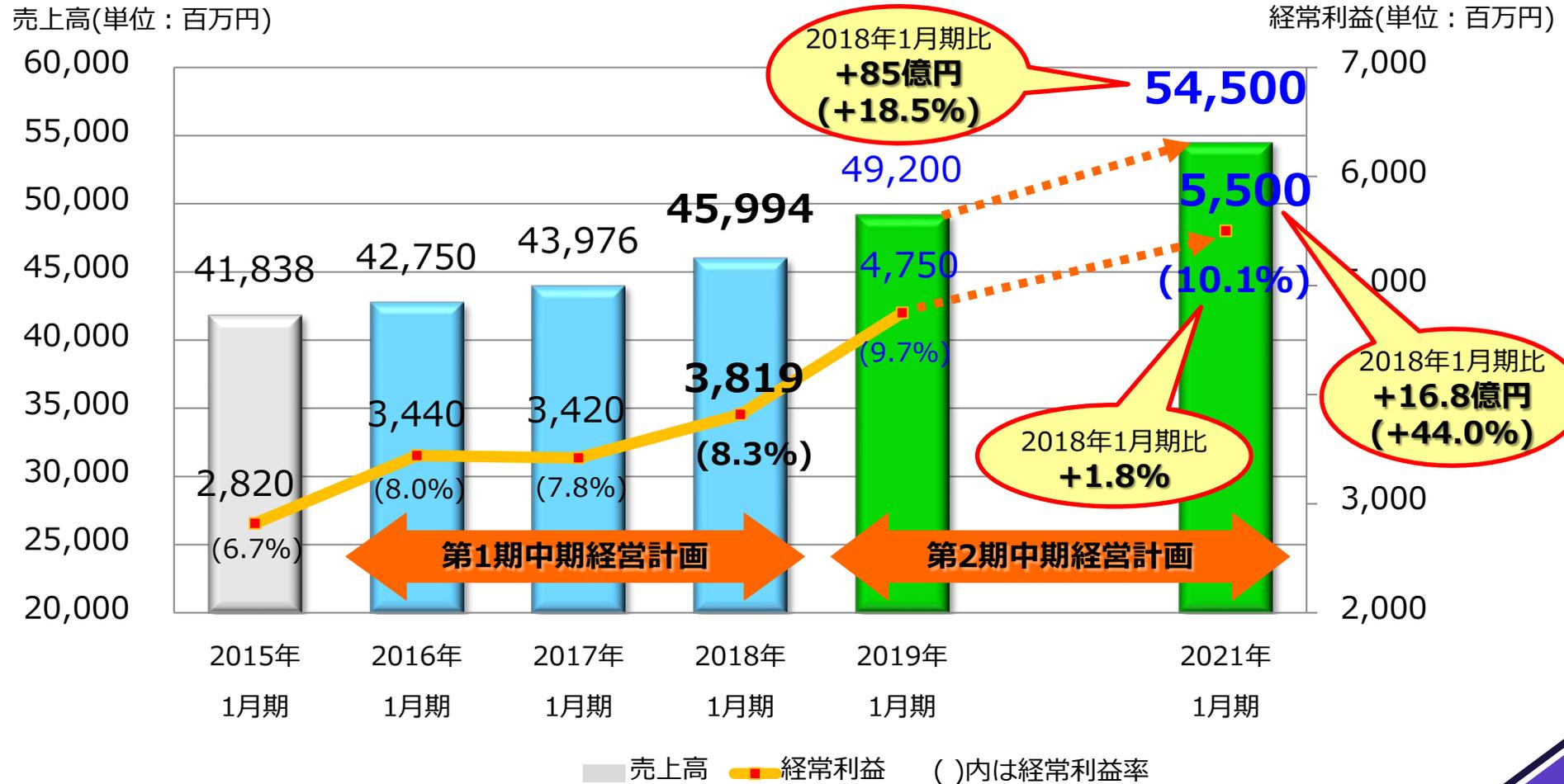
会社全体が社会で  
際立つ存在になる

**CEC**  
Computer Engineering & Consulting

社会

# 損益目標

- 連結売上高545億円、連結経常利益55億円(同率10%超)を目指す



# その他の経営目標

- 資本の効率的かつ積極的な活用を通じて企業価値を向上し、株主に貢献する

資本効率	ROE 10.2% → <b>12%以上</b> (2018年1月期実績) (2021年1月期目標)
株主還元	配当および株価向上による資産価値向上による還元を行う 引き続き安定配当を基本としつつ、積極的に株主還元を実施
その他	設備投資も積極推進し、企業価値向上に努める

# 事業セグメントの見直しを実施

## ■ 特徴あるビジネスモデル構築のため、組織再編を実施

当社の大きな強みは2つ

**1** 自動車産業、ロボット産業、プリンター産業など日本を代表する大手組立製造業との長年にわたる取引と培ったノウハウがある

**2** ICTインフラ構築のまとまった技術者を育成・確保しており、データセンター事業を含めて情報システムのライフサイクル全体を支援できる事業内容・組織体制を持つ

デジタル  
インダストリー  
事業

サービス  
インテグレーション  
事業

## 技術・人のシナジー／お客様との共創イノベーション

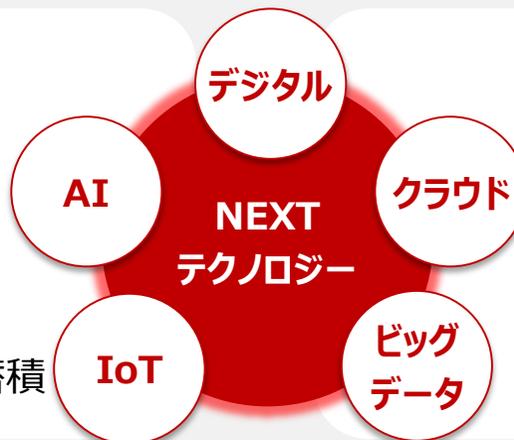
デジタル  
インダストリー  
事業

製造業特化のICTパートナー

ICTのトータルインテグレーター

サービス  
インテグレーション  
事業

- スマート工場化で進むICTニーズ
- お客様のIoT導入、PoC拡大
- AI、IoT、センシング技術
- FA制御、ロボット・設備のノウハウ蓄積



- ICTインフラ全般のノウハウ
- 自社DC、クラウド連携基盤
- 業種・業務特化型システム
- 最新テクノロジーのR&D加速



### セキュリティ共通基盤

統合セキュリティ（製品・サービス群）



24時間・365日セキュリティ監視センター



業種特化型セキュリティ



ファクトリー（工場）向けセキュリティ

### ICTトータル基盤

システム構築・運用 +  システム  
アプリ開発  IoTプラットフォーム  ネットワーク  
クラウドサービス  センサー  
組込み



*Shape your future*

**CEC**  
Computer Engineering & Consulting

おわりに  
おわりに

顧客

パートナー  
企業

## 四面謳歌

従業員

株主

顧客・パートナー企業・従業員・株主と  
常に喜びを分かち合える会社になる

おかげさまで創立50周年

# The 50<sup>th</sup> Anniversary

まずは、**100年続く企業**を目指して!!

継続的に成長する

骨太のしっかりした会社となるよう  
全社一丸となって邁進していきます

# ご清聴ありがとうございました



## Shape your future

[お問合せ先]

株式会社シーイーシー

企画部 IRグループ

03-5789-2442

経理部 IR担当

046-252-4111

- 本資料は、投資を勧誘する事を目的として作成されたものではありません。
- また、本資料に記載しております将来の業績に関する見通しは、日本経済や情報サービス産業の動向、その他現時点で入手可能な情報による判断及び仮定により、算出しております。従いまして、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における内外の状況変化等により、変動する可能性がある事をご承知おきください。